

(第4号議案)

令和2年度事業計画(案)

令和2年度(令和2年10月から翌年9月)の我が国経済を展望してみますと、新型コロナウイルス感染拡大のなかで、企業は極めて厳しい環境での活動を余儀なくされることが見込まれます。

新型コロナウイルス感染対策として、世界各国でワクチンと治療薬の開発が進められています。早晚ワクチン接種が始まる模様ですが、ウイルスの実態については不明な点も多く、当面手探りの企業活動とならざるを得ません。ウイルスとの共存の中、新しい日常への模索が社会の全ての分野で始まっており、次第に心理的な落ち着きは取り戻してくるものの、企業努力だけで感染拡大前の水準まで業績回復を図ることは容易ではなく、債務残高がGDPの2倍を超え、主要先進国の中で最も高い水準にある我が国財政の余力は乏しく今後のコロナウイルス対策に伴う財政出動は多くを望めないことから、リーマンショックを上回る大幅な景気後退からの急速な回復が期待できる状況にはありません。

一方、世界に目を向けますと、このような未曾有の危機の中でも、大国の対立が続き、感染拡大防止や景気回復への協調姿勢は感じられません。米中の争いは、経済だけでなくイデオロギーにも及んでおり、権力の集中を進め内向的な政策傾向を強める国々も散見され、自国第一主義が広がり、世界の分断が深刻化しています。我が国においても課題は山積ですが、菅新政権の下で、行政、国民、事業者、研究機関などが一丸となって国難とも称される感染拡大に対抗していくことが望まれます。

さて、こうした状況の下、山梨経済同友会の令和2年度の活動を考えてみます。

山梨県では、中部横断自動車道の双葉JC以南の全線開通が令和3年夏頃に見込まれており、これを見据えた地域活性化、企業進出等の動きが加速しています。また、リニア中央新幹線の開業に関しても、県の指針である「リニアやまなしビジョン」が策定され、周辺開発が本格的に動き出します。一方、医療機器関連産業を育成し、甲府盆地から静岡県東部の医療産業集積地「ファルマバレー」を結ぶ一帯への集積を目指す「メディカル・デバイス・コリドー推進計画」、観光産業を高い収益性のあるものに変革することで本県の基幹産業に育て上げるとともに、観光産業を働く魅力にあふれる産業とすることを目指す「やまなし観光推進計画」の改定など、新たな産業成長戦略も策定されました。交通インフラの整備を追い風に、新産業の育成、基幹

産業の強化による山梨県の飛躍が期待されます。

現在の山梨は、全国の地方部と同様に、人口の減少、少子高齢化の中、活力の低下は深刻です。突然現れた新型コロナウイルスの感染拡大は、山梨の主要産業である観光関連産業をはじめ、広範囲に悪影響を及ぼしています。

一方、感染拡大に伴う社会の変化は、私たちの生き方にも問いを投げかけています。社会は都市への人口集中が進むことにより効率的に発展してきましたが、今回のコロナ禍は集積の弊害を露わにするとともに、IT技術の進歩に伴う柔軟な働き方を普及させ、地域の優位性に目を向けさせることになりました。振り返ってみたとき、今年度は地方復活の転換点となる年となるかもしれません。

山梨経済同友会は、活力ある山梨の創造に向けて責任ある行動を実践する経営者の組織であります。極めて厳しい事業環境下ではありますが、自ら制御できないことは気に留めず、できることは何かを改めて見つめなおし、コロナ禍は新たな市場を生み出すチャンス、新たな可能性を試す好機ととらえ、山梨新時代を共に創り上げていく気概が求められていると感じます。

同友会の令和2年度の事業計画は、新型コロナウイルス感染拡大という特別な事情の中で活動できなかった期間も長く、令和1年度の事業のほとんどが未消化となっていますので、令和1年度の組織・事業計画を継続して活動していくことといたします。

予定事業の中では、リニア中央新幹線と中部横断自動車道関連については、山梨県にとって千載一遇のチャンスとなるビックプロジェクトですので、関係各機関と連携しながらしっかり関わって参ります。また、前期に取り組みを始めた「つばさを広げる会」と「女性活躍パートナー会議」については、コロナ対策を講じながら、連携を結んでいる山梨県や甲府市、そして地元大学と共に進めていきたいと思えます。また、その他の事業（活動）も、ウィズコロナ・アフターコロナを踏まえた活動を展開したいと思えます。

さらには、世の中が大きく変わっていく兆しがうかがわれる中、山梨経済同友会らしくフレキシブルに、既存の事業だけでなく緊急性がある課題に対してもタイムリーに対応していきたいと考えています。

以上のように令和2年度の事業は、前年の計画を基本として、ウィズコロナ・アフターコロナを踏まえた活動を展開すると共に、当初計画にない事項についてもフレキシブルに対応していきたいと思えます。新年度もご協力の程よろしく願いいたします。

委員会(部会)案

●新DCTP会議 水野裕央座長、繁尾明彦幹事長 (相談役:入倉 要・長澤重俊・副代表幹事・常任幹事)

山梨県の今後にとって重要な案件やタイムリーな課題に対して、山梨県や関係機関と連携し、情報収集及び検討を重ね、各部会と協働して意見書を取りまとめ提案活動を展開する。
また、継続事業として「20年後の山梨」「やまなし女性にプラス!」「ICT活用」に取り組む。
☆委員会部会の役職者と山梨県の幹部で意見交換の場を設定し、連携して取り組むテーマを選定する。

●山梨リニューアル委員会 (相談役:入倉 要・長澤重俊・副代表幹事)

□リニア部会 志村浩男部会長、小澤健太郎副部会長・小倉恵一副部会長

7年後となるリニア開業に向けて、リニア新駅の周辺整備および二次交通整備等について県と連携して情報収集及び検討を行い、提案活動を展開する。

□中部横断道部会 五領田周司部会長、依田光人副部会長・飯島禎典副部会長

中部横断道整備計画を見据えて、関係機関と連携して情報収集及び検討を行う。

□交流人口推進部会 原田由起彦部会長・内藤英明副部会長・豊前貴子副部会長

世界中から山梨県を訪れてもらえるような、新たな観光施設や既存観光地の連携を、関係機関と協働で情報収集及び検討する。また、時代に合った観光PRの方法を模索し、産官学で連携して取り組む方法を検討する。(例; ワイン県・フルーツ王国・水の都・葛飾北斎・サンリオ)

●未来山梨創生委員会 (相談役:入倉 要・長澤重俊・副代表幹事)

□未来の山梨を考える部会 上原伊三男部会長、清水栄一副部会長・桐井隆行副部会長

山梨県の課題に対して、県民と一緒に勉強し意見交換する場(シンポジウム)を開催する。

□つばさを広げる部会 上原伊三男部会長、清水栄一副部会長・桐井隆行副部会長

5大学や県と連携し、一流の経営者を招聘し、優秀な学生を育成する「つばさを広げる会」を定期的に開催し、山梨県内で学ぶ若者が将来の夢を考えるきっかけとする。

□山梨ネットワーク部会 齊藤基樹部会長、豊田等副部会長

経済同友会のホームページを充実させると共に、情報収集&発信ツールとして進化させる。
また、5G、AI、IoTの研究をおこない、生産性向上や働き方改革への活用を検討する

□次世代育英部会 築田裕彦部会長、伊藤祐寛副部会長・丸茂智史副部会長・饗場紀仁副部会長

経済同友会メンバーが学校現場に出向き、次代の山梨を担う若者(中・高・大学生)に出張授業を実施する。

□運営部会 齊藤勇介部会長、伴野公亮副部会長

各種会議や連携事業・イベントなどの運営を担当すると共に、会員交流事業を担当し、会員拡大など内部充実をはかる。また、各委員会で2回づつ全体委員会(全会員を対象として開催する会)を開催するサポートを行う。